

平成31年度島根県米づくり取組方針

平成31年3月27日策定

島 根 県
島 根 県 農 業 振 興 協 会
島 根 県 農 業 協 同 組 合

米政策見直しに伴い、激化する産地間競争を島根米が勝ち抜くためには、「需要に応じた米づくり」の実践が益々重要である。

島根米の主要品種の“きぬむすめ”“つや姫”は、卸売会社等の要望量に対し供給量が応じ切れていない状況にあり、生産量の拡大が急務となっている。

また、全国的に米の消費量が減少していく中であって、業務用の需要は堅調なことから、島根米についても多収穫品種の導入も含め、需要に対応した適正な品種構成を実現し戦略的な販売を展開していく必要がある。

J Aしまね「農業戦略実践3カ年営農計画」「島根米生産販売方針」、県「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」の県プロジェクト「売れる米づくりに向けた島根米レベルアップ推進プロジェクト」で目標として掲げる『契約的取引の拡大』に向け、平成31年度の取組方針をまとめる。

I 具体的目標及び取り組み

1 契約的取引率の拡大

主食用米の契約的取引率（播種前・収穫前・複数年契約のJ A集荷数量に占める割合）の平成29年産実績は、90%と全国でもトップクラスであり、今後においても着実な契約の積み上げによる安定取引を図っていく。

特に、複数年契約の拡大に向け、実需者に対して地域、品種、品質、ロット、作りかたなど、産地側のきめ細かい情報を提供することにより、信頼関係の強化を図る取組等を進めていく。

2 販売戦略としての「こだわり米」部門と「味な縁結び」部門の展開

「こだわり米」部門

かねてより全国的に知名度の高い仁多米の他、「島の香り隠岐藻塩米コシヒカリ・きぬむすめ（隠岐地区本部）」「巨木・ご神木・棚田米つや姫（石見銀山地区本部）」「石見高原ハーブ米きぬむすめ（島根おおち地区本部）」は『ご縁三国結び米』としてそれぞれ憲章を作成し、ブランド米として全国的にも認知度が上がっていることから、今後も卸売・小売業者と連携し、さらなるレベルアップと販売の強化に取り組む。

近年では、「プレミアムつや姫『たたら焔米』（雲南地区本部）」のように、新たな地域ブランド米も誕生しており、今後も消費者から求められるブランド米の育成を継続していく。

また、29年から県内で製造を開始している「金芽米」については、機能性や健康志向といった観点から県内の量販店や医療施設などにおける啓発活動に併せ、消費者認知を高める活動を行い、販売拡大を図る。

「味な縁結び」部門

主食用米の消費量が年々減少する中、主要品種の“きぬむすめ”“つや姫”を中心に「需要に応じた米づくり」を展開する。ライフスタイルの変化に応じた消費者ニーズを把握し、需要の確保、創出により安定的な取引確保を目指す。

加えて、多収穫品種（“ほしじるし”“つきあかり”等）の本県における栽培適性を現地試験等により把握し、堅調な需要が見込まれる中食・外食向けの米としての本格的な導入や作付拡大に向け取組みを進めていく。

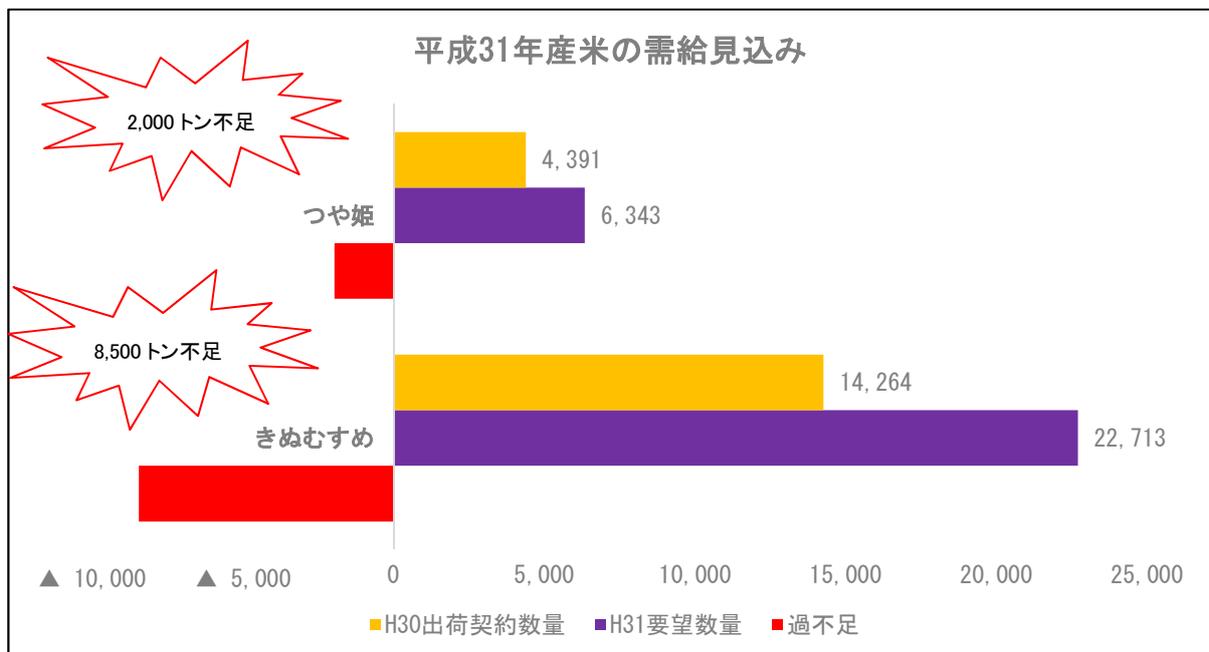
3 平成31年産うるち米品種別作付計画

【主要3品種の販売上の特性】

コシヒカリ…全国的に作付けが多く、競合が激しく全国の相場の影響を受けやすい。
「仁多米」「ハーブ米」「隠岐藻塩米」などのように、こだわり米として事前契約等により確実に販売。
きぬむすめ…安定した品質に対し評価が高い。業務用・量販店向けの需要が非常に多く、要望量は現状の生産量を大きく上回っており不足。
つや姫 …つや姫は9県で特別栽培基準により栽培されている。量販店向け・業務用で評価が高く、需要量に対し不足。

【「きぬむすめ」「つや姫」の生産拡大】

“きぬむすめ”“つや姫”については、需要量と供給量との乖離が大きく、卸売業者等からの要望に応じきれない状況であるため、コシヒカリからの品種転換による作付拡大と、品質を維持した上での生産拡大技術の確立等に取り組む。



※JA しまねのデータから作成

【生産における推進方法】

- (1) “きぬむすめ” “つや姫” の生産拡大に向けた技術支援、コシヒカリからの品種転換の推進により、需要に応じた適正な品種構成を構築
- (2) 島根の「つや姫」マイスターを核とした各地域への技術の波及と作付面積の拡大
- (3) 低コスト・省力化生産を実現するため、「つや姫」研究会を中心とした資材統一に向けた取り組みを推進
- (4) 業務用に向く品種の選定・導入を推進
- (5) 試験研究と現地実証を連動させた品質向上、安定生産技術の確立

【販売における推進方法】

- (1) 業態別販売情報の収集・把握
- (2) 事前契約内容の充実（播種前・複数年契約）による安定取引の推進
- (3) ライフスタイルの変化に応じた新たな需要の創出、販売方法の検討
- (4) 認知度向上のため、各種広告媒体を活用した積極的なPR活動の実施
- (5) 増加する業務用需要に向けて実需者と関係を密にした販売ルートの構築
- (6) 機能性・健康志向に応じた玄精米の普及と販売拡大

4 「特A」獲得に向けた取組み

一般財団法人 日本穀物検定協会が主催する「米の食味ランキング」で、平成26・27・29年産に続き、平成30年産において「つや姫」が4度目の「特A」を獲得。

「特A」獲得はPR効果が非常に大きく、実需者との取引に有効な判断材料となる上、生産者の意欲向上にもつながっている。

こうしたことから、「つや姫」における獲得の継続、「きぬむすめ」「コシヒカリ」でも獲得が必要不可欠である。

そこで、島根県、島根県農業振興協会、島根県農業協同組合が連携し、「特A」獲得に向けた技術的課題の解決、栽培データの蓄積による技術の体系化に取り組んでいく。

5 水田フル活用に向けた取組み

県・地域水田フル活用ビジョンに基づき、戦略作物等について産地交付金等により水田活用を推進するとともに、水田における園芸作物の導入や生産性向上等を進めていく。

II 実施期間

平成31年度